

第2章 宇都宮市の景観の現状と課題

1 宇都宮市の景観特性

景観形成に向けた理念や方針，その実現に向けた取組等を定める前提として，宇都宮市の景観特性を「自然」，「郷土」，「都市」の3つの観点から整理します。

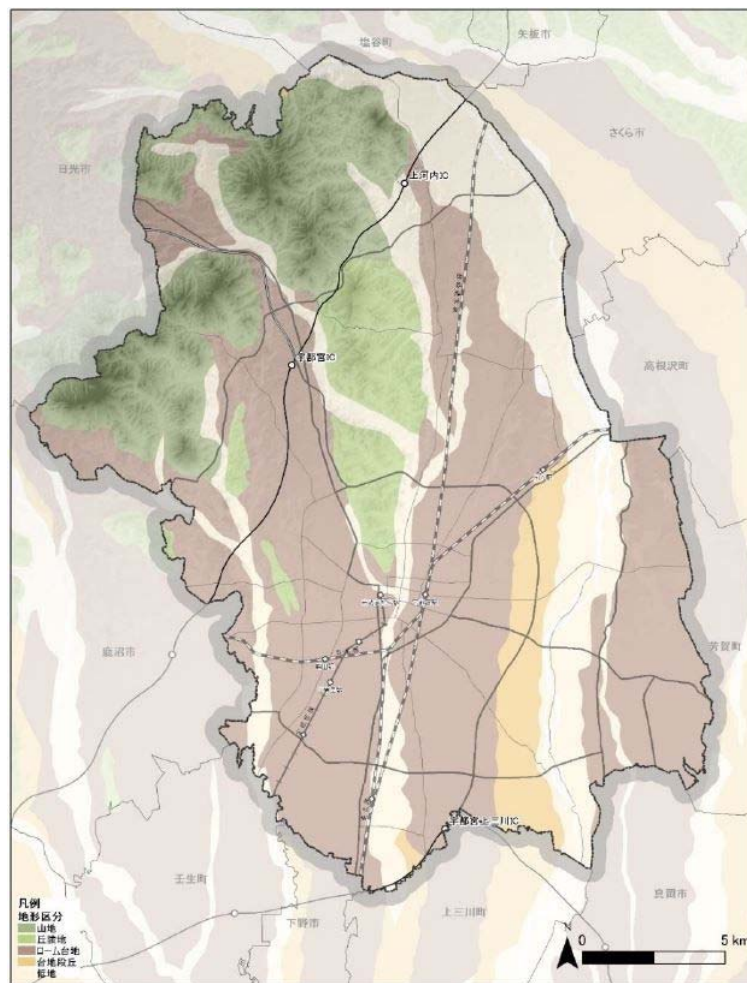
(1) 自然

1) 宇都宮市の地理的な特性

宇都宮市は，奥羽山脈の南西端と関東平野の北端に位置し，南北に楔状に伸びる宇都宮丘陵と台地，及び鬼怒川，田川，姿川によって形成された低地で構成されています。市街地は，古くから宇都宮丘陵の南端に位置する八幡山・二荒山神社を中心として，宇都宮西台地の上に発展してきており，北及び北西を山々に固まれ南東から南西に開けた地形になっています。

市街地からは本市の北西部の本山，鞍掛山，古賀志山をはじめとする，山々の稜線や斜面を背景として眺望することができます。

また，宇都宮丘陵は楔を打ち込むように市の中心部に伸びており，宇都宮の景観的特徴の一つとなっています。



<広域地形図>

ア 山地

本市では北西部を中心として、男体山や女峰山などからなる日光連山や羽黒山、古賀志山など多くの山が見られます。日光連山は栃木県日光市に位置していますが、市街地の高所だけでなく、環状道路や橋の上、鉄道の車窓など、市内の様々な場所から見られます。宇都宮市東部の低地を流れる鬼怒川からは羽黒山が見えるほか、北西部郊外に位置する古賀志山は低山であるものの、郊外であれば道路等から見るすることができます。また、栃木県庁や宇都宮市役所の展望ロビーなどからは富士山も望めます。



<農地と羽黒山の眺め>



<赤川ダムと背後の古賀志山>

イ 台地

北西部の山地から次第に標高が減じ、台地と丘陵地が広がっており、台地上にJ R宇都宮駅を中心とした市街地が広がっています。低地から台地へ上がる坂の上などからは、低地部を眼下に望むことができます。鬼怒川が流れる低地部に向けて、南東方向にゆるやかに標高が減じています。



<台地上に形成された大谷石奇岩群>



<台地上に広がる市街地>

ウ 丘陵地

宇都宮丘陵は緑豊かな帯を形成しており、縁辺部では丘陵が遠方への眺めを遮ることにより、緑に囲まれた空間が広がっています。



<宇都宮の中心市街地に向けて楔を打ち込むように南北に伸びる宇都宮丘陵>

エ 低地

低地部では、広がりのある農村景観が展開しており、遠方の山地が背景となっています。また、鬼怒川は南北方向に流れ、東側の台地との境に広がる河岸段丘の緑が望める風景が広がっています。



<前景に農地と集落、屋敷林、背景に日光連山>



<広がりのある低地部の農村景観>

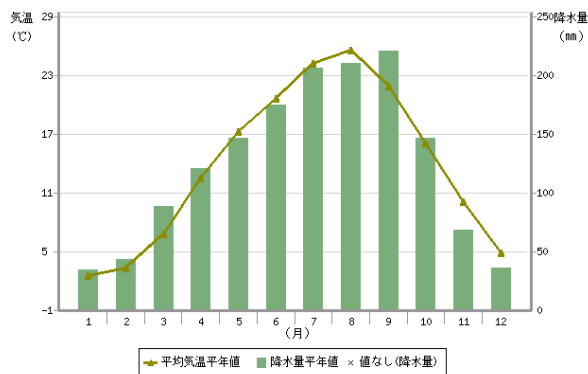


<鬼怒川と緑が広がる河岸段丘>

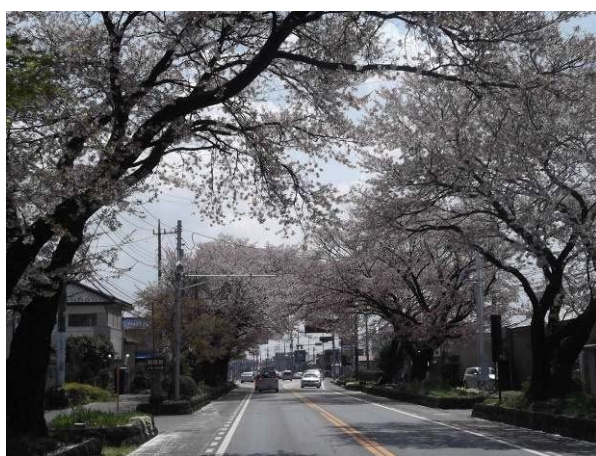
2) 気候・季節

本市の気候は、太平洋型気候ですが、内陸部に位置するため年間の気温差が大きく、夏の激しい雷雨は夏の風物詩になっています。

季節の変化を象徴する景観としては、春には、日光街道や新川・釜川沿いの桜並木、八幡山や多気山の桜が彩りを添え、また秋には、紅葉の山々、低地に広がる水田の稲穂や市街地内のトチノキやイチョウの並木が色づき、冬には日光連山の雪化粧が遠望できる等、色彩豊かな風景を創り出しています。



<宇都宮市の気温と降水量> 気象庁



<日光街道の桜並木>



<駅東公園のイチョウ並木>

3) 河川・川辺

ア 郊外を流れる河川

本市の水系は、東側の鬼怒川を経て直接利根川に流入する鬼怒川水系と、西側の思川、渡良瀬遊水池を経て利根川に至る巴波川・思川水系とに分けられます。

鬼怒川や姿川は、水量も多く、水質も比較的良好で、自然的河川の面影を残しています。また、鬼怒川は低地部を南北に流れ、周りには水田が広がっています。鬼怒川サイクリングロードや鬼怒川橋など様々な場所から眺めることができます。



<鬼怒川>



<姿川>

イ 市街地を流れる河川

中心市街地内には、田川や釜川、新川が流れており、市民にとって潤いや憩いの場を提供しています。

田川はJR宇都宮駅西側にある宮の橋等から宇都宮市の市街地を背景に見ることができ、川沿いには桜並木が整備されています。

釜川には都市景観と調和した回遊庭園である釜川プロムナードが整備されており、しだれ桜など季節の草木に彩られています。

新川の宇都宮市西原から新町にかけては、川沿いが桜並木になっており、市内有数の桜の名所として知られています。



<田川と宇都宮丘陵>



<釜川プロムナード>



<新川の桜並木>

4) 農村景観

本市の市街地は、国道4号、国道119号沿道及び東武宇都宮線沿いに延びており、その周辺に農村景観が広がるとともに、山地の縁辺部には樹林を背景とした山際の集落が点在し、昔ながらののどかな風景を残しています。

また、宇都宮環状道路や羽黒山からも見ることができる鬼怒川周辺の低地部には、段丘面の緑地を背景に田園風景が広がっており、点在する散居型の集落と田園が、昔ながらの集落景観を形成しているほか、筑波山や高原山を背景にした風景や、田園の中を新幹線やJR宇都宮線などの鉄道が走行している風景が見られます。



<豊郷地区の農地と丘陵の緑>



<羽黒山への眺め>



<新幹線の高架橋と田園風景>

5) 宇都宮らしい街路樹

ア トチノキの並木

栃木県庁から宇都宮市役所を結ぶシンボルロードには、県木であるトチノキの並木が整備され、大通りから県庁へと向かう風格ある街並みを形成するとともに、歩道などに心地よい木陰をもたらしています。

イ イチョウの並木

シンボルロードの市役所前や中央図書館前、駅東公園には市木のイチョウの並木が整備され、新緑や紅葉の時期には特に印象的な街路景観を形成しています。

また、宇都宮城ゆかりの名木で市の天然記念物に指定された大イチョウは、長年市民に親しまれ、現在は復興のシンボルとして多くの人に愛されています。



<シンボルロードのトチノキの並木>



<旭町の大イチョウ>

(2) 郷土

本市には、鬼怒川左岸に位置する約3万年前の人々の生活を偲ばせる飛山の落とし穴、姿川西側に位置する縄文時代前期の大規模集落跡（根古谷台遺跡）など、河川沿いの段丘に数多くの古代の遺跡が発見されています。特に笹塚古墳、塚山古墳は大型の前方後円墳で、当時のこの地域の中心が宇都宮南部にあったことを示しています。

また、本市の中心市街地においては、平安時代から鎌倉時代にかけて、古代に成立した宇都宮明神（二荒山神社）の門前町として始まり、その後、宇都宮城及び町屋や宿場が形作られ、江戸時代に宇都宮城の西側の武家地が付加され、現在のまちの基盤が概ね成立しました。江戸時代の主要な道路線形や町割も現在に引き継がれています。

さらに、江戸時代以降、本市では大谷石[※]の採石産業が確立しました。市の北西部に位置する大谷町を中心とした石切場である大谷地域では、今なお大谷石が採石されており、地域内の姿川を挟んだ大谷景観公園対岸には、国の名勝指定を受けた大谷石の岩壁があり、迫力ある景観を創り出しているほか、住宅の石蔵や石塀、道祖神、カトリック松が峰教会や旧大谷公会堂等の石造建築など、市内の至る所で、大谷石による風景が展開しています。

※大谷地域に広く分布している緑色凝灰岩の総称



<根古谷台遺跡>



<二荒山神社（境内からの眺め）>



<国指定名勝御止山の岩肌>



<大谷石建築物>

1) 史跡

ア 古墳

本市には塚山古墳をはじめ笹塚古墳や琴平塚古墳など多くの古墳や古墳群があります。なかでも塚山古墳は市花である、鮮やかなつつじが植えられています。

イ 宿場町・街道

本市の北部に位置する白沢宿は、江戸時代から明治時代に栄えた奥州街道の宿場町です。現在は旧奥州街道沿道に用水が流れ、地域住民により水車が設けられており、当時の風情を彷彿とさせる街並みとなっています。一方で、中心市街地の西側に位置する清住町通り・本郷町通りは、日光街道と奥州街道の追分で、明治期から昭和初期に建てられた歴史的な町屋や大谷石建築物が残っています。

また、日光街道の杉・桜並木、街道沿いの歴史的な町家や一里塚、道標等が残されている地域もあります。

ウ 宇都宮城址公園とその周辺

城下町・宿場町文化として、城郭や堀割は失われていますが、二荒山神社と宇都宮城址公園が向き合い、宇都宮城址の周囲には旧奥州街道や旧日光街道、釜川があり、江戸時代に大きくつくりかえられた町割りは、現在の本市のベースとして受け継がれています。宇都宮城址公園は江戸時代中期の宇都宮城の一部が復元された公園で、夜間はライトアップしています。また、城下町としての街路形態や往時の町割を示す町名が残されています。



<塚山古墳のつつじ>



<宇都宮城址公園>



<白沢宿>



<清住町通り・本郷町通り>

2) 歴史的建築物

ア 二荒山神社

本市には門前町文化があり、現在も中心市街地に鎮座している二荒山神社、バンバ、上町、下町といった名称に残されています。バンバ通りから見上げる二荒山神社の大鳥居と山門と二荒山の緑は、市民の生活の中心として、また信仰の聖なる場としての風景をつくっています。

二荒山神社の境内から見おろすバンバ通りは、現在も商業の中心として賑わいを見せています。

二荒山神社は、春には桜が咲き、夜にはライトアップされ、人々の滞留や憩いの場となっているほか、祭りの時期には多くの人で賑わっています。

イ カトリック松が峰教会

本市の中心部には大谷石造りの教会と聖堂であるカトリック松が峰教会が位置しています。現存する最大級の大谷石建築で国の登録有形文化財に登録され、中心市街地における大谷石の魅力を感じさせる本市のシンボリックな景観であり、ライトアップなどによる魅力ある夜間景観も創り出しています。



<二荒山神社>



<二荒山の緑>



<カトリック松が峰教会>



<カトリック松が峰教会 (ライトアップ) >

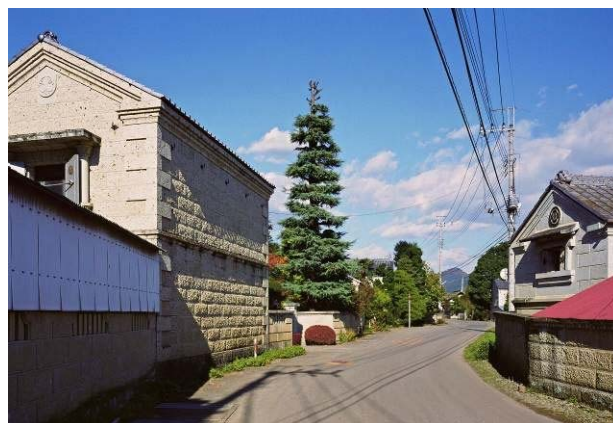
ウ 大谷石建築物

大谷石建築物は、本市の産業、文化、人々の生活に密接に関わっており、本市のイメージを印象付ける貴重な資源として、誇れる景観づくりにおいて非常に重要です。特に大谷石蔵などは、市内に数多く存在しており、本市らしい街並み景観を形成しています。

また、大谷石蔵などが集積した街並みを形成している徳次郎町（西根）・上田町・芦沼町などの大谷石建築物群における街並みは、「大谷石の文化」を象徴する、本市の中でも貴重な集落景観を形成しています。



<大谷石建築物>



<大谷石建築物群：徳次郎町（西根）>



<大谷石建築物群：上田町>



<大谷石建築物群：芦沼町>

(3) 都市

本市の北西部は大半が山地の森林であり一部の範囲は農用地として利用されています。宇都宮駅及びその周辺、鬼怒川左岸側のテクノポリスセンター地区に建物用地(市街地)が広がっています。その市街地を取り囲むように、北東部ならびに南部の一部、鬼怒川右岸側を中心に農用地が展開しています。

1) 都市構造

ア 都心部景観

都心部は、旧城下町にコンパクトにまとまっています。こうした街並みは古賀志山や多気山など多くの山々や丘陵地のような高い位置から俯瞰することができます。

宇都宮のメインストリートである大通りは、都心部の二核二軸構造の東西都心軸を担っており、大通り沿いは、商業業務施設やマンションなどの中高層建築物が立地し、量感(ボリューム)や高さが周辺市街地から突出しています。そのような中、景観形成重点地区に指定した大通り地区については、「宇都宮のメインストリートにふさわしい風格と魅力ある景観の形成」を目標に、都市拠点の中心として、多様な都市機能の集積と高度な土地利用を図りながら、次世代に継承する快適で質の高い高次な都市空間の形成を目指しています。低層階では賑わいを、中高層階では風格を、それぞれ創出するため、建築物に対する色彩やファサード*の形態意匠の誘導、屋外広告物の規制・誘導を図っています。

また、JR宇都宮駅西口にはペDESTリアンデッキが整備されており、西側に延びる大通りを眺められます。市街地は宇都宮タワーや栃木県庁の展望ロビーなどから眺められ、夜は宇都宮市の美しい夜景も見られるほか、県庁と市役所を結ぶシンボルロードは、大イチョウやトチノキの並木のある、風格ある街並みです。

東武宇都宮駅の西側にはユニオン通り、東側には約500mにわたるアーケード商店街のオリオン通りや南北に延びるバンバ通りが賑わいをみせています。オリオン通りの一角に整備されたオリオンスクエアでは、日常的にイベントが実施されるなど、さらなる賑わいや憩いの場が創出されています。



<JR 宇都宮駅西口から見た大通り>



<オリオン通り>

※ ファサードとは...

建築物を正面から見た外観のことをいう。

イ 住宅地景観

都心部を取り囲む形で住宅地が広がっており、雀宮駅や岡本駅周辺、鶴田町など、土地区画整理事業により、魅力や拠点性、住民等の快適性を高める良好な景観形成が図られている地区や、豊郷台など、大規模な住宅地開発に伴い、無電柱化や、街路樹や生垣による、緑豊かで良好な街並みが創出されている地区があります。また、旧城下町の武士の居住区であった西二～三丁目や東武宇都宮線沿いの古い住宅地開発のなかには、区画道路は狭いものの敷地内の緑も多く、比較的良好な住宅地景観を呈している地区もあります。

ウ 工業地景観

本市には、北東部から南部にかけて、宇都宮工業団地や清原工業団地に代表される大規模なものなど、7つの工業団地が整備されています。このうち、宇都宮工業団地や清原工業団地は、公園のほか、風格あるケヤキ並木などの木々も多く、市民の憩いの緑景観が広がっています。また、北東部や南部などの比較的規模の小さい工業団地では、住居系や商業系の景観も見られます。

エ 交通の景観

鉄道は、J R宇都宮線、東武宇都宮線が南北方向に、またJ R日光線が東西方向に延びているほか、幹線バス路線がJ R宇都宮駅を中心に放射状に整備されています。

道路は、「都心環状線」「内環状線」「宇都宮環状線」の3環状道路と、都心部から郊外に延びる12放射道路で形成されています。

また、現在、基幹公共交通であるL R Tの整備が進められております。

このように、都心部や田園、河川、住宅地などの多様な土地利用を縦断・横断する交通の景観が形成されています。



<JR 宇都宮駅西側の大通り>

2) 活動（生活・文化）

中心市街地では、大通りを中心に多彩な催しが開催され、宇都宮の夜を飾る「ふるさと宮まつり」では街中がお祭り一色となり、大きな盛り上がりを見せているほか、新年の風物詩である初市や出初式などは、活気と伝統を感じさせる風景となっています。

一方、近年ではアジア最高位の自転車ロードレース「ジャパンカップ」が開催され、北西部の森林公園周回コースに加えて、大通りや公園などを走るコースもあり、国内外からの多くの来訪者で賑わっています。

また、宇都宮はカクテルやジャズの街として、「宇都宮カクテルカーニバル」や「ミヤ・ジャズイン」などのイベントが開催され、街の様々な場所で賑わいが創出されています。

地域住民による、魅力的な景観の保全・活用に向けた取組も様々行われています。河川や坂道に沿って植えられたコスモスやあじさいなどが丁寧に維持管理され、住民の愛着が感じられる風景も見られ、釜川や大谷など、それぞれの魅力や特性を生かした活動が市民主体で行われている地区もあります。



<ジャパンカップ>



<釜川>



<田川コスモスロード>



<氷室あじさい坂>

《景観形成基礎調査》

魅力ある都市景観形成に向け、本市の個性や魅力を活用した景観づくりに取り組むため、景観特性や固有の景観資源を新たに発掘または再検討することを目的に調査（2017（平成29）年度実施）

1 景観特性や景観資源の調査・分析

- ・宇都宮市の地域特性や景観資源の分布状況の調査・分析（自然的条件，社会的条件，法規制）
- ・関連計画等が示す宇都宮市の景観特性，景観資源の整理
- ・市内の学校校歌にみる地域の景観に関する調査・分析

調査・分析結果

- ・本市は，南北方向に伸びる台地と低地，丘陵地が東西方向に交互に形成される変化に富んだ地形が景観の基盤となっています。
- ・うつのみや百景や市内の校歌において，山や河川などの地理的要素が多く出現し，市民の原風景となっています。

2 市民，来訪者ニーズ等の調査・分析

(1) 市民が守りたい景観資源等の調査・分析

市民にとっての大切な景観，来訪者に見てもらいたい景観について調査

1) 住まいの周辺／宇都宮市全域における大切な景観，来訪者に見てもらいたい景観

調査・分析結果

ア 自然に関する眺めについて

- ・眺めを構成する主たる景観資源を，自然，歴史・文化，市街地，都市施設に分類すると，自然に関する眺めが最も多く挙げられました。
- ・自然に関する眺めの視点場として，市内の様々な場所が挙げられました。
- ・日光連山，男体山や，鬼怒川，田川など，山や川を主とした自然景観を大切にしたいと感じている市民が多く，その中，日光連山や男体山など，遠方の山への眺めは，車窓や陸橋など，道路空間を視点場とするものが多く挙げられました。
- ・河川景観への眺めでは橋が視点場として多く挙げられ，視対象としては河川敷や遠方の山々など，河川が周辺や背後の自然環境と一体となった眺めが多く挙げられました。
- ・田園風景は，集落，新幹線，電車など，他の視対象の周辺景観として多く挙げられました。

イ 歴史・文化に関する眺めについて

- ・中心市街地や大谷地域の視点場が多く挙げられました。
- ・大谷に関する景観資源は、大谷景観公園から眺める大谷石、大谷資料館で見る採石場跡など、視点場、視対象ともに大谷地域内に多く位置していました。また、特定の岩や大谷石造りの建築物も挙げられました。
- ・大通りやオリオン通りなどから眺める二荒山神社の景観が、特に多く挙げられました。
- ・また、採石場跡を含む大谷資料館や二荒山神社、カトリック松が峰教会など、歴史・文化資源がライトアップされた状態への眺めも多く挙げられました。

ウ 市街地に関する眺めについて

- ・街並み、住宅地など、一団の建築物群への眺めが多く挙げられました。特に、山頂、宇都宮タワー、平和仏舎利塔、市役所の展望室などの高いところから見渡す街並みや夜景を挙げる人が多くありました。
- ・特定の建築物については、宇都宮駅や建築物がライトアップされた状態が挙げられました。

エ 都市施設に関する眺めについて

- ・鉄道が走行する風景が多く挙げられました。
- ・並木や文教施設、公園・緑地内の樹木、草花などの緑空間の景観が多く、特に、八幡山公園や田川、新川などの公園や河川沿いの桜並木、駅東公園付近のイチヨウ並木、県庁前のトチノキ並木などの沿道の並木が多く挙げられました。
- ・また、川沿いの道や遊歩道などの細街路の眺めを挙げる人が多くありました。

2) その他、宇都宮市の景観についての自由回答（良いところ、悪いところ、魅力向上に必要なこと、など）

調査・分析結果

- ・自然に恵まれた環境であり、大切にしてほしいという意見が多くありました。
- ・一方、中心市街地において、街並みの雑然さが指摘されており、建物の高さや色彩、屋外広告物の色彩に関する規制が必要との意見が多く挙がりました。
- ・また、城下町としての歴史や、大谷石を活かした景観整備を求める意見が挙がりました。
- ・良好な景観形成に向けて、市民による清掃や、市民ボランティアへの支援など、市民による取り組みが必要との指摘がありました。
- ・また、ビューポイントの整備や、歴史説明板の設置など、景観を見せる、伝えるための取り組みが必要との意見も挙がりました。

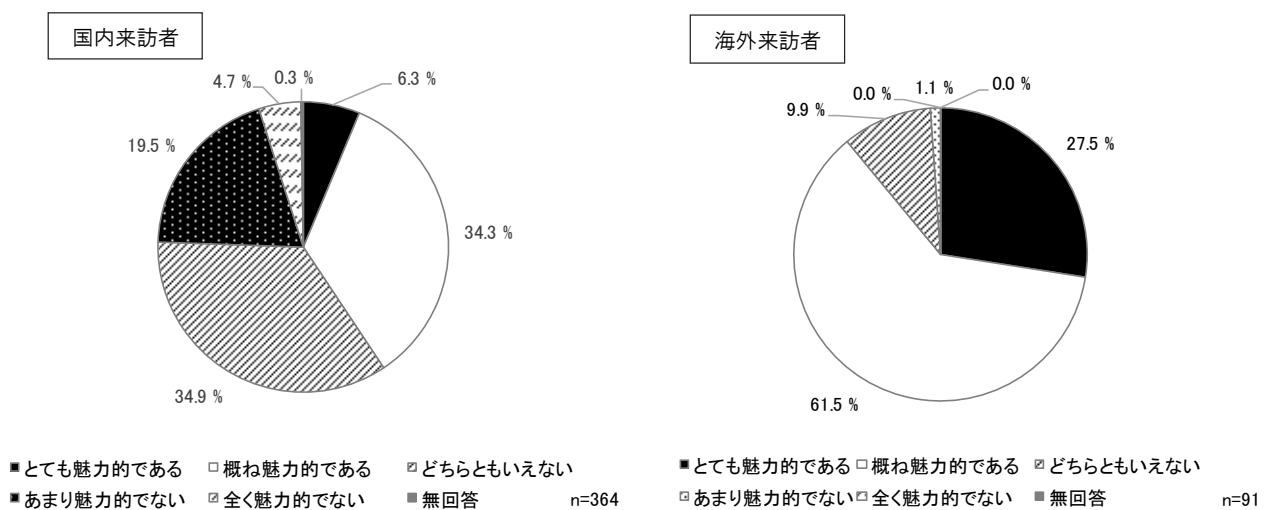
(2) 来訪者（国内・海外）のニーズの調査・分析

国内の来訪者及び在住・滞在している外国人を対象に、魅力的だと感じる景観や、良好な都市景観の形成に必要なこと、重要だと感じる眺めの場所について調査

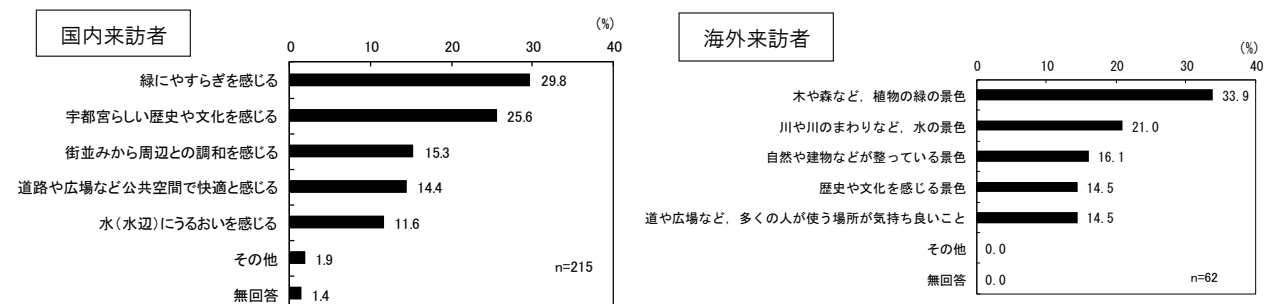
1) 宇都宮市の景観に対する所感

調査・分析結果

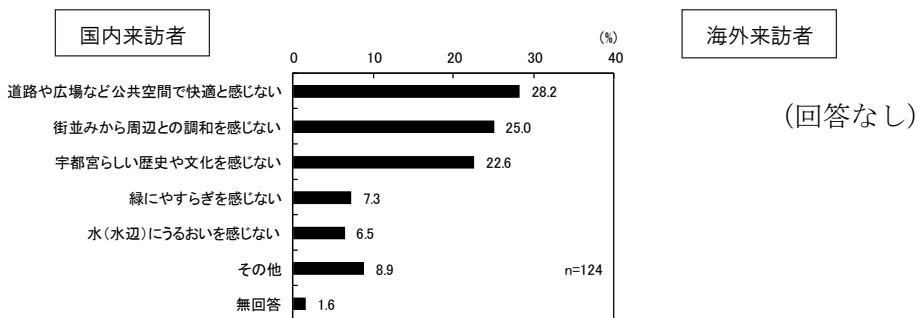
- ・国内の来訪者、外国人ともに、現在の宇都宮市の景観を魅力的と感じている人が多く、特に外国人は全体の約9割が魅力的と回答しています。
- ・魅力的と感じる理由として、「緑にやすらぎを感じる」が国内、海外ともに最も多く、外国人は「水（水辺）にうるおいを感じる」を次に多く挙げている一方、国内の来訪者は当回答が最も少なく、水辺における景観に対する評価に違いがみられました。
- ・魅力的でないと思う理由として、「道路や広場など公共空間で快適と感じない」、「街並みから周辺との調和を感じない」など、まちなかにおける景観について挙げられました。



「現在の宇都宮市の景観を魅力的だと感じますか？」の回答



「なぜ魅力的だと思いますか？」の回答

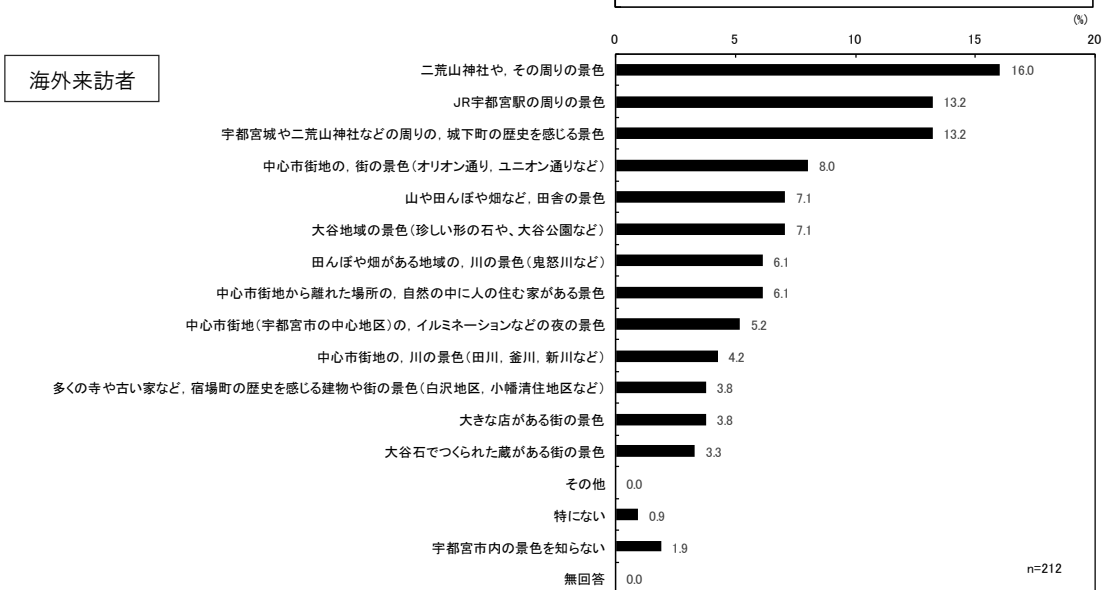
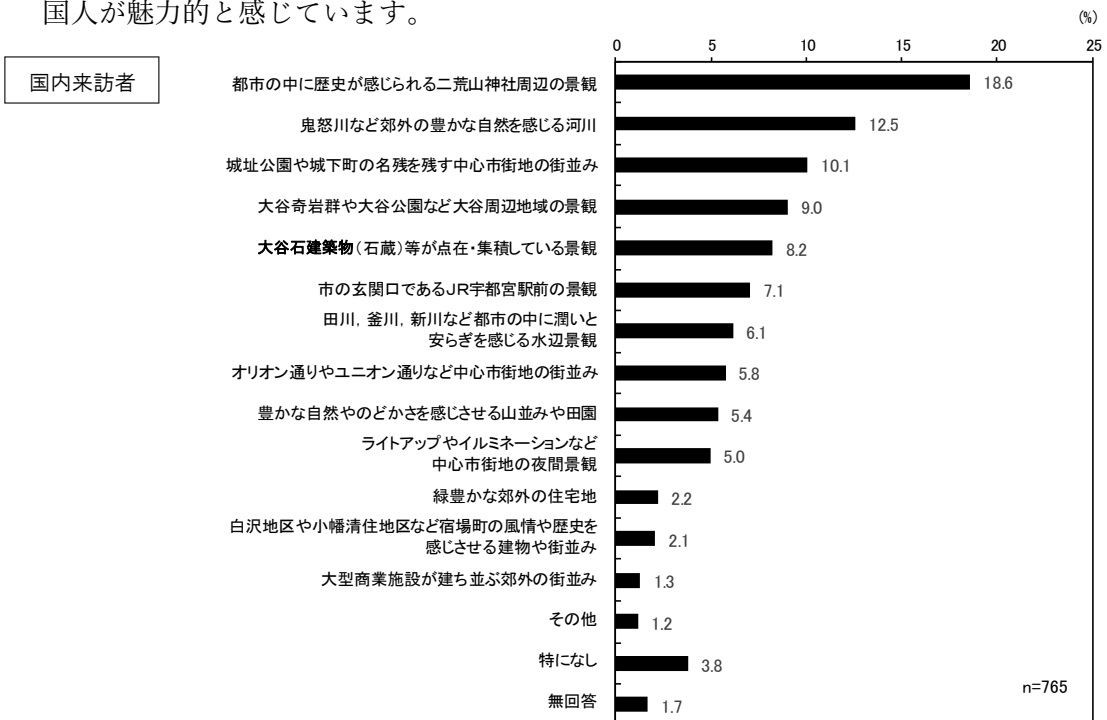


「なぜ魅力的ではないと思いますか？」の回答

2) 宇都宮市における魅力的な景観

調査・分析結果

- ・市民が魅力的と感じている二荒山神社周辺の景観を、国内の来訪者、外国人も魅力的と感じています。
- ・豊かな自然や山並み、田園について魅力的と感じている市民は多い一方、来訪者は少なかったです。
- ・国内の来訪者は、鬼怒川など郊外の河川を多く挙げたほか、城址公園や城下町の名残、大谷周辺地域など、宇都宮市の歴史・文化があらわれた景観を魅力的としています。また、二荒山神社周辺の景観は、幅広い年代が魅力的と感じています。
- ・外国人は、在住年数が短い人ほど、駅前の景観や中心市街地の街並みなど、中心市街地における景観を魅力的としています。一方、二荒山神社周辺の景観は、在住年数によらず、多くの外国人が魅力的と感じています。



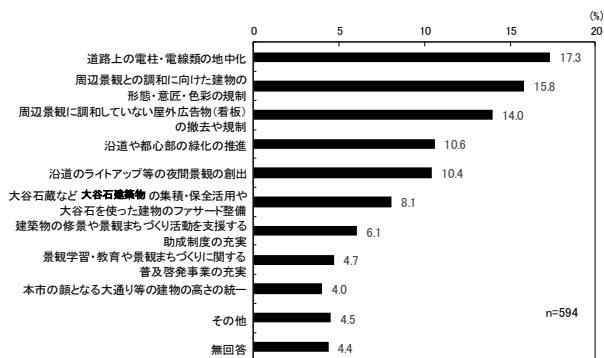
「宇都宮市内で魅力的と感じる景観は何ですか？」の回答

3) 良好な景観形成に必要なこと

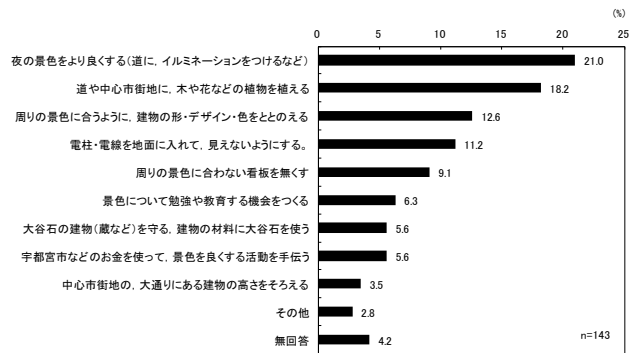
調査・分析結果

- ・沿道や都心部における緑化推進の必要性について、市民、国内外の来訪者が共通して多く回答されています。
- ・市民及び国内の来訪者は、電柱・電線の地中化や、建築物の形態・意匠・色彩の規制、周辺景観と不調和の屋外広告物の撤去や規制など、良好な景観形成に向けて unnecessary なものを除く方策を多く挙げています。
- ・一方、外国人は、沿道のライトアップ等夜間景観の創出、緑化推進など、良好な景観形成に向けて新たな景観を創出する方策を多く挙げています。
- ・国内来訪者、外国人ともに、20歳代以下の若い世代は、沿道のライトアップ等、夜間景観の創出が必要と考えています。

国内来訪者



海外来訪者



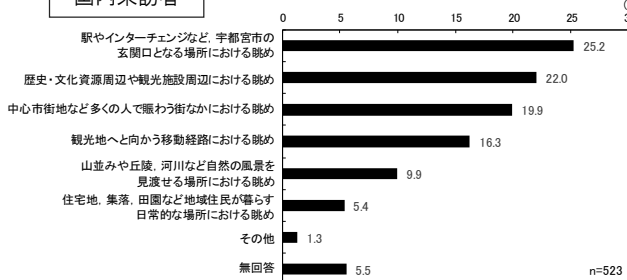
「良好な都市景観の形成に必要なことは何だと思えますか？」の回答

4) 宇都宮市における重要な眺め

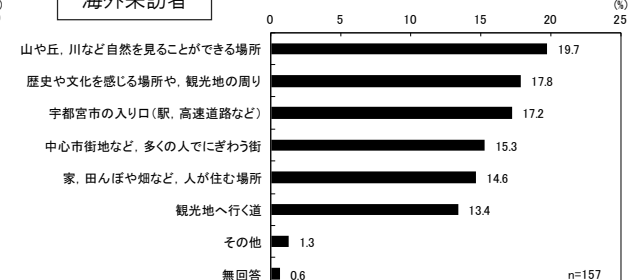
調査・分析結果

- ・国内の来訪者、外国人ともに駅やインターチェンジなど宇都宮市の玄関口となる場所、中心市街地など多くの人で賑わう街なか、歴史・文化資源周辺や観光施設周辺など、来訪者が滞留する場所における眺めを重要と考えています。
- ・国内来訪者は、どの年代においても、歴史・文化資源周辺や観光施設周辺における眺めを重要と考えており、来訪経験が多いほど、中心市街地の多くの人で賑わう街なかの眺めを重要と回答しています。
- ・自然の風景を見渡せる場所や、住宅地・集落・田園など地域住民が暮らす日常的な場所における眺めを重要とした回答は少なかったです。

国内来訪者



海外来訪者



「宇都宮市内のどのような場所における眺めが特に重要と思えますか？」の回答

2 これまでの景観施策の現状と課題

「市民主体・市民協働の景観形成」、「市民・事業者の景観意識の高揚」、「規制誘導による景観形成」、
に対して、これまでの景観施策の実績と課題を整理するとともに、本市らしい都市景観の形成に向けて
「新たな魅力ある景観の創出」に関わる課題を示します。

(1) 市民・事業者の景観意識の高揚

施策事業	主な取組
表彰事業の実施	・まちなみ景観賞（H4～）
事業者啓発の実施	・景観整備機構指定（2団体） ・団体会報への掲載（建築士会、大谷石研究会、屋外広告美術協同組合、商工会議所等） ・屋外広告タウンミーティング（H26～）
次世代教育の実施	・出前講座（H11～，10回程度/年） ・高校生景観まち歩き（H27・28）
市民参加型の啓発イベントの開催	・講演会，シンポジウム（H25～） ・うつのみや百景ツアー（H20～，9回/年）

【現状】

- ・まちなみ景観賞やうつのみや百景ツアー，講演会など，市民参加型の取組や官民連携による広報活動の実施により，意識高揚の機会の充実が図られました。
- ・しかし，様々な啓発の取組における参加者の年代については，比較的中高年齢層が多くなっている現状があり，次代を担う若年層に対する意識高揚について，不十分な点が見受けられました。

【課題】

- ・市民協働による景観づくりをさらに促進するためには，地域の景観資源を守り，伝えるとともに，幼少期から郷土愛を育むことが重要であるため，これまで様々な機会を捉えて取り組んできたところです。一方，各種啓発事業への参加者の年代に偏りがあるため，特に若年層を対象とした景観に関する意識付けや高揚をより一層図る必要があります。

(2) 市民主体・市民協働の景観形成

施策事業	主な取組
地域の景観形成の推進 (景観形成重点地区等の指定)	宇都宮駅東口地区，大通り地区，白沢地区，雀宮駅周辺地区， 岡本駅周辺地区，中里原地区
住民組織の育成 (景観づくり推進協議会の設立)	・景観づくり推進協議会（大通り地区，白沢地区，岡本駅周辺 地区，大谷地区）
民間活力を生かした景観形成 (景観整備機構など)	・歴史的建造物の調査及び保全活用コンペティション（建築士会） ・大谷石建築物群の調査・研究，シンポジウム（大谷石研究会） ・うつのみや百景ツアーにおける連携（うつのみやシティガイド協会） ・市主催講演会における連携（H25～）
市民ボランティアの活動の促進	・まちなみ景観賞に景観づくり部門創設（表彰数4件） ・違反広告物除却ボランティア（12団体）
技術支援や助成制度の実施	・景観アドバイザー（H7～） ・景観づくり推進活動費交付金（H21～） ・景観づくり整備費補助金（H21～）

【現状】

- ・景観形成重点地区の指定に当たり，住民組織との連携による地域の景観づくりや，景観整備機構との連携による大谷石建築物等の保全・活用に係る普及啓発など，市民主体・市民協働による取組の充実が図られました。
- ・一方で，市民主体の活動について，市全体への波及や促進を図るため，顕彰制度の拡充や周知機会の創出を図ってきましたが，十分とは言えない状況です。

【課題】

- ・景観形成重点地区の指定など，地域特性に応じた景観づくりを推進してきましたが，今後さらに，市民協働による，地域資源を活かしたその地域ならではの都市景観の形成が求められます。
- ・これまでも市民協働による様々な取組を行ってきましたが，特に景観形成重点地区の指定後における，地域住民等による主体的かつ継続的な活動が求められます。

(3) 規制・誘導による景観形成

施策事業	主な取組
景観計画に基づく景観形成	・届出制による規制・誘導 (H20～) ・色彩景観ガイドラインによる誘導 (H20～) ・景観形成重点地区等指定 (7 地区)
屋外広告物の適正な規制・誘導	・地域区分や広告物景観形成地区等の設定 (H20～) ・違反広告物の是正指導強化 (H24～) ・優良広告物への誘導 (まちなみ景観賞にサイン部門創設)
景観アセスメントの導入	・公共施設デザイン調整 (H20～)

【現状】

- ・ 中心市街地や地域拠点において、戦略的に景観形成重点地区等を7地区指定し、景観特性に応じたルールの設定による、各地区の目標・方針に基づいた景観形成が図られつつあります。
- ・ しかし、景観形成重点地区などにおいて、当初想定していなかった工作物等に対する規制・誘導については、不十分な点が見受けられます。
- ・ また、国内外の来訪者のさらなる増加が見込まれる中、本市の魅力を享受できる、良好な眺めの確保には取り組めていません。

【課題】

- ・ 地域拠点等における各地域の特性に応じた景観形成を図る必要があるほか、LRT整備や大谷地域振興方針、歴史文化基本構想などの各種まちづくりと連携した取組が求められます。
- ・ きめ細かな景観形成と適正な規制・誘導を図ってきましたが、近年、太陽光発電施設など周辺地域に対する景観面での影響が懸念される新たな課題に対して、街並み景観への配慮に向けた検討を行う必要があります。

(4) 新たな魅力ある景観の創出

1) 大谷石建築物等の保全・活用による、本市ならではの魅力的な景観形成

歴史的建造物のうち、大谷石建築物等は、本市の産業・文化・人々の生活に密接に関わっており、本市のイメージを印象付ける貴重な資源であるとともに、誇れる景観づくりにおいて非常に重要です。特に大谷石蔵は、市内に数多く存在し、本市らしい街並み景観を形成していますが、適正に保全するための仕組みが確立しておらず、解体を余儀なくされているものも少なくありません。そのため、市・市民・事業者の連携・協働により、保全・活用を推進することが求められています。

2) 中心市街地における良好な夜間景観の形成による魅力向上

二荒山神社やカトリック松が峰教会などの、本市を象徴する歴史文化的資源へのライトアップは重要な景観資源であり、周辺と一体となった夜間景観の創出を始め、建築物や橋（宮の橋や御橋など）へのライトアップ、街路樹などのイルミネーションなどにより、良好な夜間景観の形成を図り、本市の個性と魅力を高めていく必要があります。

3) 良好な眺めの保全向上と視点場※の保全

本市の魅力を享受できる良好な眺めを、人が滞在する場所において確保するほか、建築物の規制誘導等によって魅力的な景観資源への眺めを保全するとともに、快適に滞在できる視点場を整備する必要があります。

4) ネットワーク型コンパクトシティ形成と連携した景観形成

ネットワーク型コンパクトシティの推進により、新たな拠点や軸の形成が図られ、都市の骨格が変容します。そのため、景観形成の方針や適切な規制誘導など、良好な景観形成に向けて推進していく必要があります。

5) 都市の魅力・象徴の創造に資する、LRT沿線の魅力的な景観形成

LRTは、都心、田園、河川、工業団地、住宅地など、多様な土地利用の変化の中を走行します。この、LRTが走行する風景、また、LRTから眺める風景は、本市を印象付ける代表的な景観となります。そのため、新たに創出されるLRT沿線の景観に対する配慮や対策を推進していく必要があります。

6) 大谷地域における、観光振興に繋がる良好な景観形成

本市において特徴的な景観を形成している大谷地域においては、大谷石の歴史・文化が形成した自然景観、産業景観、大谷石建築物といった観光に繋がる要素が多く存在しています。そのため、今後のさらなる魅力向上を図るため、地域固有の景観資源の保全・活用を図りながら、観光振興施策と連携した景観まちづくりを推進していく必要があります。

※ 視点場とは...

ある景観を眺める位置のことをいう。眺める対象のことは視対象という。